

第46回労働リーダーシップコース 開催報告

金属労協組織総務局主任 上口 智子

昨年引き続き10月開催となった第46回労働リーダーシップコースが10月6日、開校した。北は栃木県、南は長崎県から総勢41名が参加し、2週間にわたり研鑽に励んだ。

46年の歴史の中で

講義テキストの巻頭には労働リーダーシップコース校長から受講生へのメッセージを掲載している。今回のメッセージに香川校長は「この労働リーダーシップコースは深い交わりを構築するチャンスがある」「人と人のつながりを築く場となっている」と記している。この言葉に労働リーダーシップコースの魅力が現れている。昨日まで見ず知らずだった人と、寝食を共にし、単組や産別は異なっても同じ金属のものづくり産業で働く者同士、励まし合いながら研修を重ね、閉校式の頃にはかけが

えない仲間となっている。実に不思議な縁である。この労働リーダーシップコースには、座学で学べることだけではなく、そのような魅力があるからこそ46年間続いてきたのだろう。

開校式

昨夜から心配されていた台風も明け方には過ぎ去り、予定どおり午前10時から「篠笛」の厳かな調べで開校式が始まった。開校式では冒頭、香川校長（大阪女学院大学大学院教授）が式辞に立ち「この2週間新たな気持ちで、仲良く励ましあいながら、いろいろな直面する課題に対して活発な議論をしてほしい」と激励した。主催者を代表して相原議長は「この労働リーダーシップコースは金属労協の中核をなす重要な取り組みである。受講生の皆さんの2週間の健闘

に期待したい」と述べた。

その他、村田晃嗣名誉校長（同志社大学学長）、石井淳子厚生労働省政策統括官、山本一志金属労協関西ブロック代表、石田光男副校長（同志社大学教授）が挨拶に立ち、受講生を激励した。

最後に受講生を代表して、コマツユニオンの家人祐江さんが決意表明を行い、開校式を終了した。

班編制とゼミナール

受講生は、「労働組合と世界（香川ゼミ）」「労働組合と職場（石田ゼミ）」「労働組合と社会（中田ゼミ）」「労働組合と働き方（富田ゼミ）」「労働組合と企業（上田ゼミ）」の5つのテーマに分かれて、ものづくりという共通の土俵の上で職場や労働組合での各人の課題の解決に向けて、指導講師のもと、ゼミナール形式で相

互に率直な経験交流、議論を重ね、最終的にゼミでひとつの発表を行う。このゼミナールが様々な場面で行動する単位「班」になる。

コースの運営を担うのは受講生

コースの運営にかかせないのが、実行委員会である。コースは、受講生の主体的な運営を基本としており、受講生から選出される実行委員会がその中心になる。何故、受講生に運営をゆだねているのかというと、お仕着せの研修ではなく、自分達の研修であり、自分達で「第46回」を作っていくという意識を持っていただくためである。

各班（ゼミナール）から班長、副班長を選出し、合計10名で実行委員会を構成する。そして班長の中から1名「級長」を選出する。この級長が

- ①講義風景「金属労協の運動課題」（浅沼金属労協事務局長）
- ②茶室「清心庵」でお茶室体験をする受講生
- ③交流会での一場面～肩を組み歌を歌う受講生～
- ④セミナーの成果を発表する香川ゼミ



実行委員会のとりまとめ役となる。級長の決め方は、各回様々である。立候補、推薦が決まる場合が多いが、時にはなかなか手が上がらず副班長のジャンケンで決まる場合もある。第46回の級長は、自ら中田ゼミの班長に手を挙げた永川賢治さん（全本田労連）が皆の推薦により「級長」に選出された。

実行委員会では原則毎日1回、昼休みに集まり、受講生の健康状態の把握、受講生から出された要望などへの対応、交流会の企画などを相談し、コースの円滑な運営にあっている。貴重な休み時間を割いての対応のため大変な一面もあるが、皆、コース全体のまとめ役として責任感を持って運営にあたっている。

実行委員会の他にも受講生には役割がある。講義ごとに講義の運営を担当する座長、朝礼・ラジオ体操を担当するラジオ体操担当番、討論会のテーマ設定と討議の進行を行う討論会委員など、できるだけ何かしらの役を担い、全員でコースを盛り上げるよう工夫している。

講義と特別プログラム

受講生は、4つの柱に基づく13講義を受講した。第1の柱「自分の立つ歴史的背景を学ぶ（縦）」では「戦後の労働運動と労使関係の変遷」「国際労働運動論」の2講義を、第2の柱「自分の立っている場について学ぶ（点）」では、「労働法」「労使関係論」「労働経済論」など7つの講義を受講

した。第3の柱「自分の住む世界の拡がりについて学ぶ（横）」では、「国際比較からみた日本経済」「新しい組織文化の創造」の2講義、第4の柱「自分の生きる基礎について学ぶ（深）」では、「ファンタジーグループ」「職場のメンタルヘルス」について学んだ。

以上の講義の他に特別プログラムとして、開校講演「これからの労働運動とリーダー像」（相原金属労協議長）、特別講演「経営と人間」（服部高津製作所会長）、金属労協講演「金属労協の運動課題」（浅沼金属労協事務局長）の講義も行った。また討論会では、討論会委員から「組合離れを防ぐには？」「執行委員の残業について」「組合活動に〇〇は必要か？」

など5つのテーマが提示され、参加者は自分の話したいテーマのテーブルに行き、ざっくりばらんに議論を交わした。討論会は、特に結論を求めたものではなく、話したいテーマを話したい人が話したいだけ話すことを目的にしているが、今回は最後に討議した内容を報告しあう時間が設けられ、他のテーマではどのようなことが話し合われたのか、シェアする試みがなされた。

その他、朝6時から近くの臨濟宗「圓光寺」の禅堂で行う坐禅体験、セミナーハウス内にあるお茶室「清心庵」でのお茶室体験など京都ならではの体験プログラムも行った。お茶室体験では、お茶室に入ること自体が初めてという受講生が多く、初めは緊張した面持ちできちんと正座をして茶菓子が出されるのを待っていた。しかし、お茶室体験指導の松本先生の「無理して正座しなくてもいいですよ。足崩していいですよ。」という言葉に緊張した空気が一変し、その後はお茶の作法についての質問が出るなど、リラックスした雰囲気でお茶を楽しんだ。

鞍馬山散策

10月10日（金）、1999年まで「体育の日」だったこの日、受講生全



守っているかについて学んだ。

鞍馬寺の後は、鞍馬山を更に登り、鞍馬山に小さく響く鳥の声や風に揺れる小枝の音を聞きながら、源義経公背比べ石、木の根の道、不動堂などを経て、貴船側へと降りた。

なお、鞍馬山散策は受講生全員参加で行っているが、その他、希望者だけで10月12日(日)に比叡山登山を行い、1月開催時には雪深くて行くことができなかった延暦寺根本中堂まで足を伸ばした。

ゼミナール発表

第46回コースの集大成として閉校式の前日、10月17日(金)にゼミナール発表を行った。

まず、「労働組合と社会」がテーマの中田ゼミから始まった。中田ゼミは「仕事と処遇」納得性のある給与の決め方と水準」と題し、現在の賃金制度の課題と対策について議論した成果を発表した。

昼食をはさんで、「労働組合と企業」がテーマの上田ゼミが、「グローバル化の時代 企業社会の変貌と労働組合機能」国内雇用を守るために「」について発表、次に「労働組合と世界」がテーマの香川ゼミから、「21世紀国際社会における労働組合の役割」について発表した。上田ゼ

ミは、企業の海外進出が進んでいる中で、労働組合としてすべきことは何なのかを議論した成果、香川ゼミは①企業の海外戦略と労働組合の関わり方、②海外勤務者の処遇、③労働組合の国際的な社会貢献活動の3つの視点からの労働組合の役割を議論した成果を発表した。

一時休憩の後、「労働組合と働き方」がテーマの富田ゼミが、「ワーク・ライフ・バランスと多様な働き方」について発表、最後に「労働組合と職場」がテーマの石田ゼミが「労働組合の役割」について発表した。富田ゼミは、長時間労働への取り組みと介護離職問題を取り上げた。近年、育児支援に対する問題が取り上げられることは多かったが、介護支援について議論、発表されたのは今年が初めてのことだった。石田ゼミは、動画を交えながら①労働組合の課題、②組合員の期待、③労働組合の役割、④組合活動の原点は何か、など様々な視点から労働組合活動を議論した成果を発表した。改めて労働組合活動に何が必要なのか考えさせられる内容だった。

このゼミナール発表のため、各ゼミは夜遅くまで各ゼミ室に籠もり、議論しながら資料をまとめ上げた。中田ゼミ指導教授の中田喜文同志社

大学大学院教授からは「この間、随分と議論を重ねた。受講生のがんばり具合、プロセスを大変評価している。100点満点である。」との評価をいただいた。

閉校式

10月18日(土)の朝、閉校式に先立ち、受講生一人一人が感想を発表する「出発(たびだち)の集い」を行った。皆、2週間苦業を共にした仲間との別れを惜しむ声が聞かれた。

午前10時30分、ピアノの穏やかな調べで閉校式が始まった。冒頭、香川校長が式辞に立ち、「4つのことを言っておきたい。①ここで築いたネットワークは諸君の人生の宝である。この絆を今後も強めてこれからの人生に活かして欲しい。②ここで学んだことは、学びの一步である。ここで学んだことをベースに学びつづけてほしい。③教えることは学ぶことであることを忘れないでほしい。④アフターケアは任せてほしい。いつでもゼミ担当の5人の講師は皆さんの相談に乗るので気楽に相談してほしい。今後の活躍を期待している。」と激励し、41名の受講生一人一人に香川校長から修了証書を授与した。続いて、主催者を代表して浅沼金属労協事務局長が「このコースを通

閉校式で答辞を述べる永川級長



じて受講生の皆さんは、さまざまなものの方、考え方、知識そして友情と多くの宝を得た。これからそれぞれの場所に戻っていくが、皆さんがここで得た宝を是非活用してほしい。」と挨拶し、その後、ゼミナール担当の運営委員の先生方4名から受講生に対し今後の活躍に期待との激励を行った。

最後に、受講生を代表して永川級長(全本田労連)が答辞の中で、2週間の思い出を語るとともに「苦楽を共にした仲間、このコースの間だけではなく、コースが終わってから仲間であると思っています。最高の仲間との絆を今後も大切にしたいと

思います。」と述べた。さらに「今後は常に資質の向上に努め、人との繋がりを大事にし、仲間と手を取り合い、励ましあうことで力に変えて、目の前の課題の解決に取り組み、更にはその次の時代を見据えて、労働組合としての役割を果たしていくべく、汗を流していく決意であります。」と決意を新たにし、労働リーダーシップコースの第46回が閉校した。

閉校式後、本日に最後のプログラムである立食パーティで、うれしく、そして、感動的なプレゼントがあった。会場が暗くなり、皆が「どうしたんだ?」と思った瞬間、前方に設置されたスクリーンに「涙の数だけ強くなれるよ...」と歌が流れると同時に映像が映し出された。「TOMORROW」「たしかなこと」「ありがとう」をBGMに、期間中撮りためた写真によるスライドショーが映し出されたのである。石田ゼミ生が明け方近くまでかかって仕上げた力作に、改めて2週間を振り返り、感動を新たにした。

これからの労働リーダーシップコース

数年前から金属労協の「女性参画

第46回 労働リーダーシップコースを終えて



労働リーダーシップコース校長
大阪女学院大学大学院教授
香川 孝三 (かがわ・こうぞう)

46回になるリーダーシップコースは少しずつではあるが、時代の変化の影響を受けています。大きな変化は従来1月実施から10月に変わり、氣候のいい時期に開催できることになりました。組合大会の時期と重なる場合もあるようであるが、おおむねいい時期と言えましょう。46回目になってはじめて7名もの女性が参加しました。1名や2名の参加の場合はありましたが、7名というのは歴史的出来事です。今後これが定着できることを望みたい。国際的には女性が3割以上参加するのは当たり前になっており、日本でも当たり前になって欲しいと思います。

参加者の中で理科系出身者が多くなっているのも特色です。理科系の採用が多いことも影響しているのかもしれませんが、これが日本の労働運動に今後どのような結果をもたらすのか関心のあるところです。

選ばれて参加される方々は参加意欲が高く、積極的な行動をとりリーダーとなる資質を有する人達ばかりです。2週間と従来と比べて期間が短くなってきていますが、時間を有効に使って成果を上げてきておられます。期間中、たしかに忙しい思いをされておられますが、日常の仕事から離れて2週間過ごせることは、貴重な体験となることでしょう。

中期目標・行動計画」に則り、産別輪番制での女性参加をお願いしているが、前回の第45回までは、1〜2名、多くて3名が参加するに留まっていた。しかし、今回は様子が一変し、7名の女性が受講した。前回第45回は女性初の級長が誕生し、今回は過去最多の女性が受講した。産別者の担当の皆さんを初めとする関係者に、少しずつではあるが、確実に労

働組合を取り巻く環境が変わりつつあることを実感する。これが、一過性とならないよう気を引き締め、各産別・単組のさらなるご支援をお願いしたい。

第46回までの修了生は計1584名となった労働リーダーシップコースは、これからも歴史を重ねて行く。次回第47回は、2015年10月5日(月)から17日(土)の期間、京都・関西セミナーハウスで開催の予定。